

# ふるさと Something NEWS

第25回

## 中国の科技産業の振興と展開 ——未来志向の山東省威海市の 展開大会に参加して

一般社団法人 洮楓座  
efco.jp  
代表理事 佐藤建吉

### ▼威海市の紹介

昨年末、12月26、27日に開催された日中科技技術革新協力大会が、中国の山東省威海市で、25日午前10時過ぎに成田から山東省の青島空港に飛んだ。グレタさんに備え、船で行くべきであったが、年末にもかかわらず、中国側の手配であったので飛行機利用となった。成田からの同行者は10人で、時差1時間の同空

義など著名人の出身地でもある。威海市は、山東半島の東側先端にあり、北・東・南側の三方が黄海で囲まれているのが特徴で、水産業が盛んであり、また海浜リゾートの観光地でもある。後述するように、近代医療産業基地でもあり、中国らしくその巨大さは圧巻であった。しかし、かつては日本の占領地という歴史もあり、日中間の関係は深い。

### ▼前夜晩餐会

到着した25日の夜、6時半から晩餐会が開催された。私の席は主催者側の席で、この会議を発案した水産加工業界の会長のほか、市役所やその関係者が同じテーブルであった。名刺交換して、

料理や酒の話題になり、すっかり打ち解けた。この時まで、この大会の趣旨や内容を、十分に把握していなかった。風車や環境面の研究発表を乞われたので、展望室付き風車と水の浄化技術についてプレゼン資料をつくって送ったところ、水の浄化に絞ってプレゼンして欲しいとのこと。実は、この地が科学技術の新興地として発展する計画のため、日本と連携したいということで、当地にあるハルビン工業大学などの関わりが主軸となっていたようだ。その出身者が、千葉大学の魯教授で、知己の私に誘いがあったのである。次第に内容が分かってきた

術局長の王厚全氏が挨拶。返礼を兼ねて、東京理科大の元学長のノーベル賞候補者といわれる藤嶋昭氏が挨拶した。また、富士山静岡空港・煙台空港線を開設した西原茂樹元市長などが挨拶した。そうした、方々とも名刺交換した。

な協力モデル」李建平(専修大学) ②「新型熱電スマート製品シリーズの研究・開発」魯云(千葉大学) ③「KSB浄化水溶液剤機能水使用設備」佐藤建吉(筆者) ④「処理条件によるタンパク質の回収率や試料呈味性、栄養成分の構成および機能性に及ぼす影響」任惠峰(東京海洋大学) ⑤「浄化水排出式浄化設備(「ORESIS」)大山健(一財、4727財団) ⑥「ゾル・ゲル法の基礎とプラスチックの表面処理・機能材料への応用」平野富夫(技術士) ⑦「工場の操業スマート化」熊澤壽人(日本技術士会) ⑧「マッチング相談会」海洋技術、新素材、インテリジェント製造、省エネ・環境保存」についての商談

### ▼日中科技革新協力大会

12月26日の第1回日中科技革新協力大会の本番行事が開催された。今回行事の主催は、山東省科学技術庁、威海市人民政府、公益社団法人日本技術士会であり、その運営は威海市科学技術局、威海トーチハイテク産業開発区管理委員会であり、同時に8法人が共催として参加した。大会の次第を記すと次の通りである。

歓迎電光掲示(ホテル入り口)



歓迎電光掲示(ホテル入り口)



医療機器・バイオ医薬品産業園

行われた。午後には、日本側の前例的な科学技術の事例研究が紹介された。筆者自身は、千葉大学での池水自然浄化方法の実証結果を紹介した。この方法については、中国側の関心呼び、プレゼン後に、4件の相談を受けた。中国の河川の浄化は、緊急を要する環境問題であり、国家主導の案件でもあり、筆者らの技術は中国側に貢献できるものとの感触を得た。同業他社は、水の浄化方法について、受注を得た例もあった。



連載

前に打ち合わされたプロジェクトの契約調印式も